

国指定史跡長崎原爆遺跡
旧城山国民学校校舎展示改修計画策定支援業務委託

報告書

令和 6 年 3 月 1 5 日

株式会社 乃村工藝社

■目次

1.現況把握

(1)業務の目的	1
(2)業務概要	1
(3)展示改修計画にかかる計画書等の確認	2
(4)現地確認	4
(5)ヒアリング	
1) 指定管理者へのヒアリング (1)	6
2) 指定管理者へのヒアリング (2)	6
3) 長崎市立城山小学校へのヒアリング	6
(6)現状把握のまとめ	6

2.展示改修計画

(1)課題点の整理	7
(2) 展示方針、展示コンセプト	
1) 展示方針	8
2) 展示コンセプト	8
(3)リニューアル計画	
1) 展示の柱	9
2) 展示の課題	9
3) 期待される効果	9
4) 展示構成案	9
5) 配慮すべき事項	9
6) ゾーニング計画	
①全体諸室計画(ブロックプラン)・ゾーニング	10
②1F諸室計画(ブロックプラン)	11
②1Fゾーニング・配置プラン (サイン配置含む)	12
③2F諸室計画(ブロックプラン)	13
③2Fゾーニング・配置プラン (サイン配置含む)	14
④3F諸室計画(ブロックプラン)	15
④3Fゾーニング・配置プラン (サイン配置含む)	16
⑤4F諸室計画(ブロックプラン)	17
⑤4Fゾーニング・配置プラン (サイン配置含む)	18
(4)設備にかかる概略計画	19
概算電気容量 01	20
概算電気容量 02	21
(5)展示活用のための運営計画	22
(6)イメージパス	23
(7)概算事業費・(8)概略工程表	25
(9)展示設計に向けて	26
参考：ヒアリング詳細	参考 1

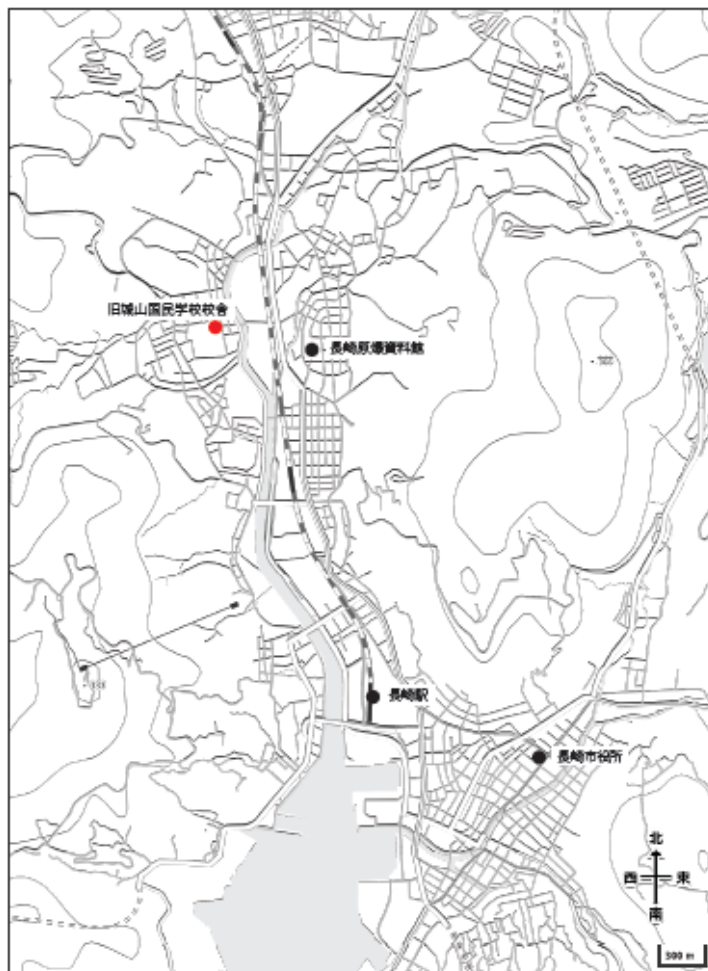
1. 現況把握

(1) 業務の目的

国指定史跡長崎原爆遺跡を構成する旧城山国民学校校舎について、児童や、来訪する平和学習者が学びを深めることができ、運営の持続可能性をより高めることができるよう、展示改修を実施するにあたり、基本コンセプトや基本方針等をまとめた展示改修計画策定の支援を行う。

(2) 業務概要

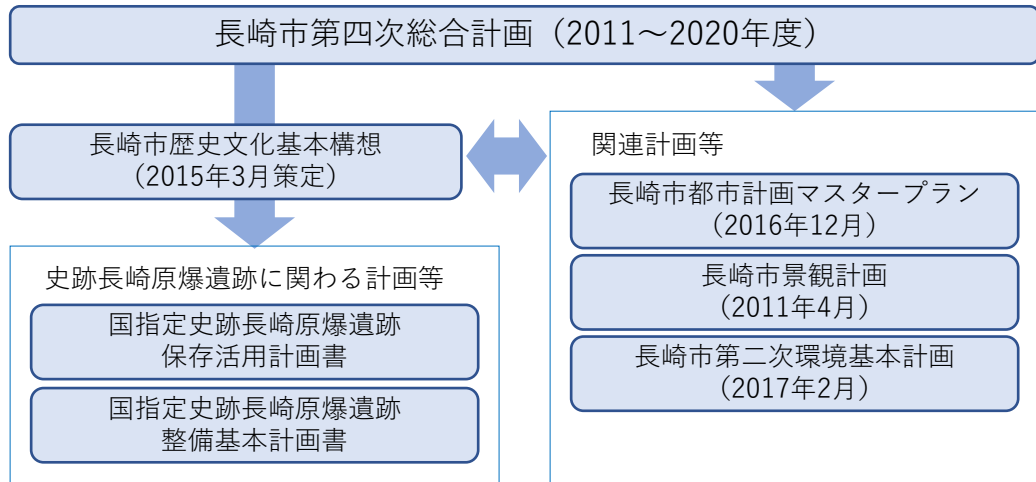
- 1) 履行期間 令和5年5月24日～令和6年3月15日
- 2) 業務場所 長崎市平野町7番8号（長崎原爆資料館）



1. 現況把握

(3) 展示改修計画にかかる計画書等の確認

① 史跡長崎原爆遺跡に関わる計画と関連計画との関係



② 国指定史跡長崎原爆遺跡保存活用計画書 2019（令和1）年3月

史跡の本質的価値を整理し、各遺跡の確実な保存と活用のための整備の課題を明らかにすることを目的とする。

【旧城山国民学校校舎の構成要素】（P72）

		要素		備考
本質的価値を構成する諸要素	指定地内	被爆校舎（木レンガ、受熱を示すコンクリートなど、被爆当時の部材） 被爆校舎基礎遺構（衝撃波の痕跡(ひび割れ)）		原爆の被害を伝える遺構
	指定地外	火葬跡 防空壕などの遺構 校舎地下遺構		現在の城山小学校校地に残存する被爆を物語る遺構
本質的価値を構成する諸要素以外の諸要素	史跡の保存活用に寄与する要素	指定地内	被爆校舎（南側校舎の部材） 被爆校舎外周フェンス	安全設備、見学者用設備
		指定地外	学校施設（校舎、体育館、プール等） 原爆被災説明板 少年平和像 嘉代子桜など平和を祈念して植樹された樹木	現在の城山小学校の学校施設
	史跡の保存活用に寄与しない要素	指定地内	集会室 教員駐車スペース 樹木	史跡の保存活用に使用されていない指定地内の学校施設遺構に悪影響を与える可能性がある要素
		指定地外	架空線 修景のため植えられた樹木	史跡の眺望を阻害する要素

1. 現況把握

(3) 展示改修計画にかかる計画書等の確認

③国指定史跡長崎原爆遺跡整備基本計画書 2020（令和2）年3月

史跡の本質的価値を構成する諸要素を確実に保存し、多様な形式での活用を可能とする適切な整備を施すため、具体的な計画及びアクションプランを策定することを目的とする。

【城山小学校ゾーン】（旧城山国民学校校舎）（P67）

- ・被爆当時の城山国民学校の校地全体を示した地区である。
- ・**爆心地及び爆心点との位置関係を踏まえ**つつ、現存する被爆校舎を実見することで、鉄筋コンクリート建造物の原爆被害、**原爆による破壊力のすさまじさを学ぶ**地区である。
- ・旧城山小学校校地は、点在する関連遺構も含めた総体として、校地で被爆した人々が著した**被爆体験証言に思いをはせる**地区である。
- ・教育現場で保存された、**生きた歴史教材として学校教育に活かしていく**地区である。
- ・遺族の慰霊活動・平和活動を通じて、**被爆体験を次代に語り継いでいく**地区である。
- ・地域住民が力を合わせて再生、復興してきた歴史を今に伝える、地域への愛着や誇りを醸成する地区である。

○整備の方針：被爆校舎の確実な保存のための整備と活用を図る。

なお、本展示改修計画は保存整備基本設計に基づいて作成したものであり保存整備実施設計の進捗状況に合わせて見直しを行うものとする。

1. 現況把握

(4) 現地確認

1F

- ・ガイダンスを行いたい、少人数しか入れず来館者がたまって外で待つことになる。
- ・ガイダンスは1クラス毎。最大人数を考慮。小学校でたくさんの生徒が学んでいた。
- ・小学校の先生：どういった人が生き残ったか
- ・地域の方々の想いがこもった施設。ボロボロになっても元と似たような形で修復して来た。
- ・城山小学校では80年を超えて平和学習が行われている。学年ごとにカリキュラムがある。6年生は修学旅行生に説明を行う。

- ・元掃除用具入れ
使い方要検討

- ・壁は後世のもの
撤去可能

- ・天井オリジナル

- ・入口については既存入り口を想定しているが利点があれば新規補強部よりの入り口も考えられる。提案する事。校門の位置から入り口は図2箇所が候補。

- ・天井 S24 ~ 27 施工



- ・丸窓用途不明
- ・壁はオリジナルだがパネルで隠されてしまっている

- ・壁下地の木煉瓦。燃えた部分、燃えなかった部分の違い。1階はなぜ燃えなかったのか。
- ・国史跡に指定されたため地面掘削ができない。

- ・現在 EV は設置せず補強用躯体部に避難階段を設置予定。遺構階段は必ず通す、一方通行動線を考えている。

2F

- ・被爆遺構部分へのアンカー打ち込み等不可
後世の壁は打ち込み可能。
- ・文化財としての価値を伝える展示が必要。



- ・燃えた木煉瓦。現在のガラスカバーが妥当か検討要。照明を仕込んであるが点灯時、見えづらくなる。
- ・木煉瓦はどの部分か説明が必要。

- ・原爆資料館と同内容、全体的な展示ではなく、この校舎のもつ意味やストーリーを伝える展示とする。

- ・校舎模型必要か。
被爆直後の形態と違う。

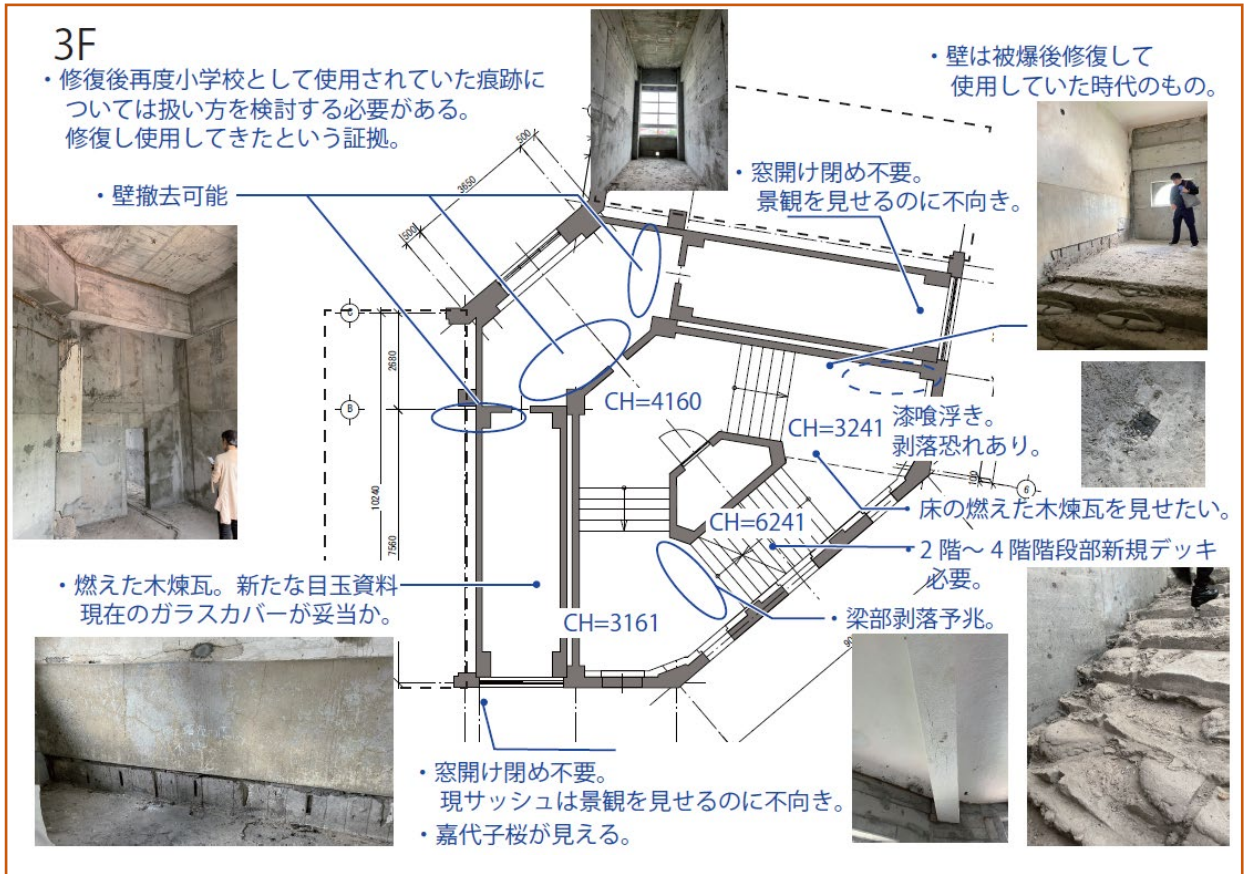


- ・現在の被爆樹木は支え合いの象徴として設置してあるが
あえてここに展示する意味がなければ場所移動も検討。



1. 現況把握

(4) 現地確認



1. 現況把握

(5) ヒアリング

1) 指定管理者へのヒアリング(1)

対象者：平和発信協議会 山口会長

日 時：2023年7月28日 13:00～14:00

場 所：城山小学校 集会室

- ・林重男氏の写真（被爆後の長崎）、内田伯から預かった「触れる被爆瓦」、荒川秀男先生の資料等、貴重な資料をもっと展示に活用したい。
- ・1階奥の年表の見直し、防空壕での被災状況や被爆前の城山町地図、ピースナビ等の交流に関する展示の追加など、グラフィックも充実させたい。

2) 指定管理者へのヒアリング(2)

対象者：平和発信協議会 旧城山国民学校校舎 池田施設長

日 時：2023年7月28日 15:30～16:30

場 所：城山小学校 集会室

- ・全体的に展示物についての説明文が不足している。現状では口頭で伝えているが、文章で説明したほうがいい。
- ・被爆校舎が現在まで遺されている理由や経緯を大事にしたい。特に三本柱（杉本氏、荒川氏、内田氏）と校舎の解体を止めた少女はきちんと伝えたい。



3) 長崎市立城山小学校へのヒアリング

対象者：長崎市立城山小学校 大津教頭

日時：2023年7月28日 9:30～10:15

場所：城山小学校 校長室

- ・城山小学校では学年毎にテーマを決め、6年間かけて平和学習を重ねている。その成果を子どもたちが発信していける場がほしい。
- ・子どもたちの身の回りにある日用品等の展示品があれば実感しやすい。
- ・被爆校舎を学習している5年生は今あるものは残してほしいと言っていた。



(6) 現状把握のまとめ

調査報告書、保存活用計画書、整備基本計画書等により導き出される旧城山国民学校校舎の特徴は次の5点に集約できる。展示改修計画においては、この特徴を踏まえた上で、現地確認やヒアリング等により判明した課題を精査し、ハード・ソフトの両面から問題解決を図っていく必要がある。

〈旧城山国民学校校舎の特徴〉

- ・ **国指定史跡**長崎原爆遺跡を構成する遺構
- ・ 長崎市における数少ない鉄筋コンクリート造の**被爆建物**
- ・ **児童の発案**で城山小学校平和祈念館として展示を開始
- ・ **小学校内**に存在しており、**地域の人々の手**で守られている遺跡
- ・ 『平和は城山から』に代表される、平和学習の文化の象徴

2. 展示改修計画

(1) 課題点の整理

■課題1：建築面

現被爆校舎が耐震診断の結果、コンクリート強度や構造などの関する指標値を満たしていないことがわかり、保存活用のため耐震補強を行うことになった。

このことに伴い、安全上の問題で一般公開していなかった3階以上を含めた展示計画を行う。ただし本報告書では展示活用に資する建築設計への条件の提案にとどめる。本展示計画は保存整備基本設計に基づいて作成するものであり、詳細については、保存整備実施設計の進捗状況に合わせて見直しを行うものとする。

■課題2：展示面

課題	課題のポイント
文化財としての価値訴求	<ul style="list-style-type: none"> ・国指定史跡「長崎原爆遺跡」としての価値を伝えきれていない。 ・階段室壁は被爆当時のものだが、パネルで隠されてしまっている。
旧城山国民学校校舎が持つ個性、特徴を生かす	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎原爆資料館と同内容の展示が繰り返されている印象があり、旧城山国民学校に関する展示が埋没している。 ・展示に統一感がなく、ストーリー性に乏しい。
ガイダンスの機能強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンスを行いたい、スペースの関係で小人数しか入れず、ガイダンス待ちの来館者が外で待つことになる。

[価値のふりかえり]

文化財としての価値訴求

- 「国指定史跡＝文化財の価値」を伝達することを中心に据えた展示基本概念を構築する。

旧城山国民学校校舎が持つ個性、特徴を生かす

- 旧城山国民学校設立から現在までの歴史を踏まえつつ、被爆校舎の持つ意味をストーリー性をもって伝える展示を目指す。
- 被爆校舎だからこそ伝えられるリアルを重視した展示を目指す。

ガイダンスの機能強化

- ストーリー性のある展示の一貫として、ガイダンスを行う場所については屋外も含めて検討していく。

2. 展示改修計画

(2) 展示方針、展示コンセプト

1) 展示方針

文化財の保存と文化財価値の伝達（展示・活用）を目指すため
何を見せるのか、何を説明するのか

**被爆した実物のリアリティを最大限活かし、
校舎自体を魅せる（見せる）展示**



2) 展示コンセプト

**被爆校舎に刻まれた原爆の惨禍を知り、
核兵器廃絶に向け考動する動機付けを与える**

被爆の痕跡や写真等から原爆被爆時の校舎を実態的に想起し、
悲惨な惨禍に思いを致し、被爆者の思いに触れることで、
核兵器廃絶と世界平和について考え行動する動機づけとなる場

■展示が伝えるべき長崎原爆遺跡の本質的価値

- (ア) 爆心地を中心に構成される遺跡は総体として、核兵器による被爆によってもたらされた物理的・社会的・人的な被害と、そこから派生した状況を面的な広がりをも示している。
- (イ) 被爆体験とそれに続く未曾有の惨禍を歴史に刻み、人々が核兵器による破壊の意味を問い、そして世界の平和を考えるという一連の営みを他者と共有する場であり続けている。



本質的価値を基に、展示において重点的に取り組むべきこと

- ①原爆によってもたらされた物理的・社会的・人的被害の実相に迫る。
- ②核兵器による破壊の意味を問い、世界の平和を考えるという一連の営みの動機付けにつながるメッセージ発信。

2. 展示改修計画

(3) リニューアル計画

1) 展示の柱

文化財の保存と文化財価値の伝達（展示・活用）を目指すため
何を見せるのか、何を説明するのか

被爆した実物のリアリティを最大限活かし、 校舎自体を魅せる（見せる）展示

- ・被爆校舎自体に価値があることを示す展示
- ・文化財としての価値を十分理解できる展示（空間演出）
→ 被爆体験の継承と生きざまの視座を織り込む
- ・学校・教育とのつながり、城山小学校内にあることの強みを活かした展示
- ・他の原爆遺跡を巡るモチベーションをつくる展示
- ・被爆校舎を通して原爆による被害を総体として捉えることを支援する展示
- ・被爆体験とそれに続く惨禍を歴史に刻み、核をめぐる問題、平和をめぐる問題を考察する一連の営みを他者と共有する展示

2) 展示の課題

□被爆校舎自体の見せ方

- ・被爆の痕跡をきちんと見せるために、極力痕跡をふさがない適切な解説配置、映像による空間演出等で校舎自体の文化財としての価値の理解を深める。
- ・被爆校舎が現存する要因の一つに被爆後も小学校として使用してきた歴史がある。それを伝える校舎修復の痕跡等も丁寧に紹介し、文化財として理解をより深める。

□旧城山国民学校の歴史の伝え方

- ・創設から現在までの歴史は単なる建物史ではない。教師や児童たち、地域の方々が平和への願いを積み重ねてきた歩みであること、そうした思いの結晶としての被爆校舎であることを伝える。

□平和をめぐる問題の継承への取り組み方

- ・被爆時やその後にこの学校で、この地域で何があったか体験した方々の証言を映像等で残していく必要がある。
- ・同時にここで平和学習を続けてきた児童たちの発表の場としての役割も“継承”には欠かせない。

3) 期待される効果

■文化財としての価値を伝える

- ・「国指定史跡長崎原爆遺構」を構成する遺構として文化財としての価値がどこにあるのか被爆校舎自体を通して実感していただける。
- ・瞬間的な被爆痕跡に留まらない文化財としての価値を、被爆後約80年の歴史と被爆校舎に残る痕跡を通して理解していただける。

■長崎原爆遺構への興味を喚起する

- ・旧城山国民学校校舎は他の遺構と異なり、被災状況と復興への歩み、学びの場として、平和学習への真摯な取り組みなど、現在までの人々の思いと活動も内包され、見ることができる。この人々の思いに触れることが、原爆遺構全体への興味喚起と誘導につながる。

■平和問題への自分化を手助けする

- ・証言映像や児童たちの学習活動等の事例や展示に接することで、来館者が被災者の体験や児童の平和学習・活動を知ることができる。
- ・身近に感じられる事例や展示に接することで国籍・年齢・性別等を超えた立場で自分が何をすべきかを考えるきっかけを与えられる。

4) 展示構成案

○導入（1F）→ 城山ガイダンス

城山地区の概観（歴史的・地理的）

城山小学校の設立（長崎市への編入、最初の都市計画となった城山地区）

地域の方々の城山小への思い

城山小学校の変遷

○原子爆弾被爆（1F～2F）→ 原爆の被害、継承の原点

校内の被爆状況（写真あり）

先生の被害（写真あり）、個人の体験の紹介（荒川秀男先生・江頭直美先生）

児童の被害（できれば写真）、個人の体験の紹介（児童について）、

涙の卒業式

動員学徒の被害（できれば写真）

○平和は城山から（3F）→ 継承の道のり

城山で行われた被爆調査

復校までの道のり（荒川秀男先生 資料 絵）

廃校にしたいくない地域の人々の思い

戦後のあゆみ（被爆校舎保存、子供たちの思いを地域の人々が支える）

○城山から世界へ未来へ（4F）→ 核兵器の問題を考える

被爆後から城山小に根付く平和の文化の共有・共感

周辺の地域も含めた海外との交流

未来は自分たちで創る

○階段室（1F～4F）→ 実物のリアリティで被爆の実相を伝える

被爆前の学校生活

原爆被爆の被害のすさまじさ（高温で焼かれた校舎、炭化した木煉瓦）

校舎の変遷（階段室外観の変遷）

5) 配慮すべき事項

- ・多くの人々が亡くなった場であることを認識し、追悼の想いを新たにする
- ・守り伝えてきた方々の思いを大切に
- ・子どもたちの能動的な学習の助けとなる展示
長崎の子ども、全国の子ども、年齢差で変化するニーズに対応
- ・未来へ向かって何をするべきか、考えるきっかけを得る
- ・文字を見ない子ども対応、文字を読みたい人向けてのバランスをとる
- ・地域の人たち、小学校の子ども達が参加できる展示
- ・旧城山国民学校であったこと、被爆校舎をテーマにした内容に注力
- ・訪問者は被爆建物であることは知っている。しかし、ここで何が起こったのか詳細まで理解している方はほとんどいない

2. 展示改修計画

(3) リニューアル計画

6)ゾーニング計画 ①全体諸室計画（ブロックプラン）・ゾーニング

■展示の柱（何を見せるのか、何を説明するのか）

**被爆した実物のリアリティを最大限活かし、
校舎自体を魅せる（見せる）展示**

■「展示室」の使命

被爆体験の継承と生きざまの視座を織り込むことで、被爆校舎の文化財としての価値を高め、原子爆弾による被害を総体として捉え、核や平和をめぐる問題を考えることを支援する。

4F 城山から世界へ未来へ 核兵器の問題を考える

ねらい

未来は自分たちが創っていく。
核兵器のない平和な世界に向けて考え行動していく。
そのためのメッセージを交換する。

3F 平和は城山から 継承の道のり

ねらい

平和学習は、被爆校舎をかけがえのない教材として、次代の子供たちに継承していく切実かつ誠実な営みであることに気づく。

2F 原子爆弾被爆

原爆の被害02、継承の原点

ねらい

原爆被爆の被害のすさまじさを人的被害要素を中心に知る。
旧城山小学校の先生たち、児童たち、動員学徒たちの写真や証言等により自分事のように実感する。

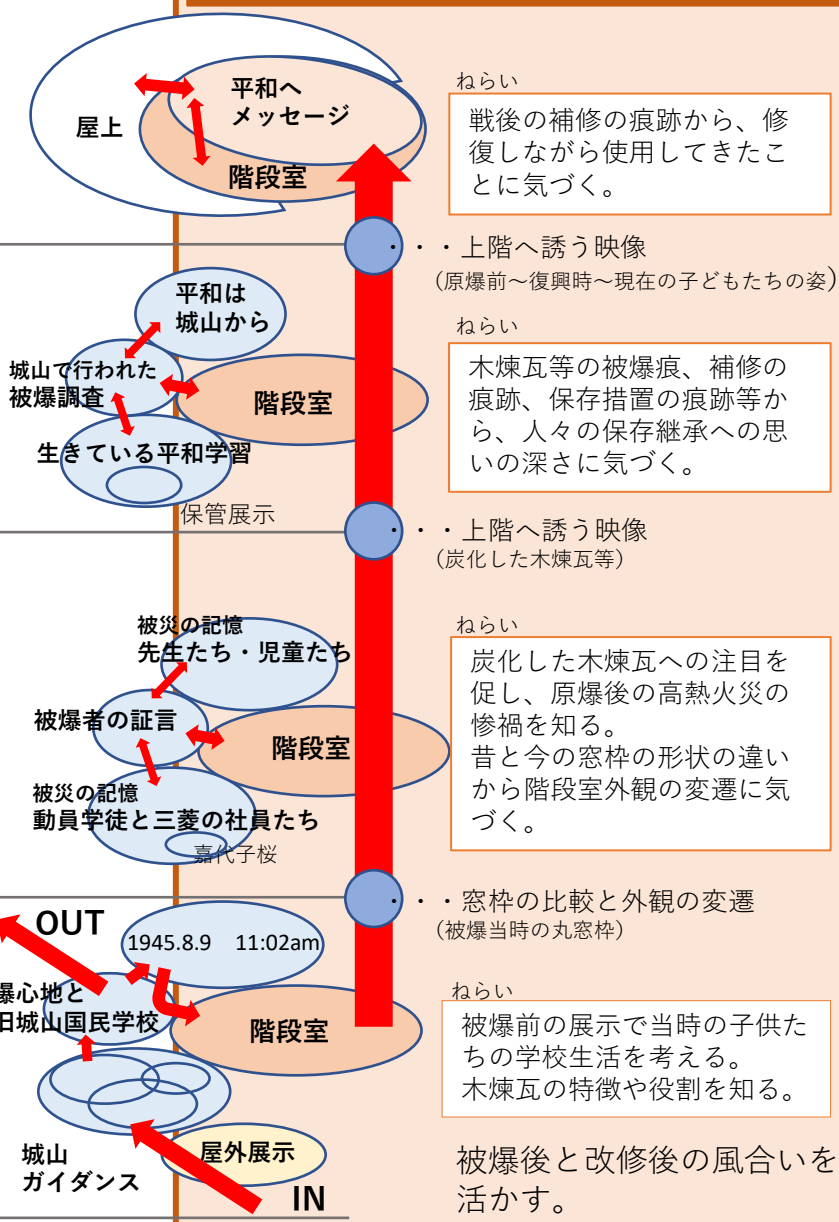
1F 導入 城山ガイダンス / 原子爆弾被爆 原爆の被害01 (建物被害的要素中心)

ねらい

城山小学校の設立から現在までのあらましとともに、原爆被爆の被害のすさまじさについて、特に建物被害的要素から理解する。

■「階段室」の使命

被爆の実相を伝える実物のリアリティを最大限に活かすため、階段室をたどることによってモチベーションを高めていく展示ストーリーを構築し、被爆校舎に刻まれたここでしか見ることができない原爆の惨禍と修復の痕跡への理解を深める。



※本展示改修計画は保存整備基本設計に基づいて作成したものであり、保存整備実施設計の進捗状況に合わせて見直しを行うものとする。

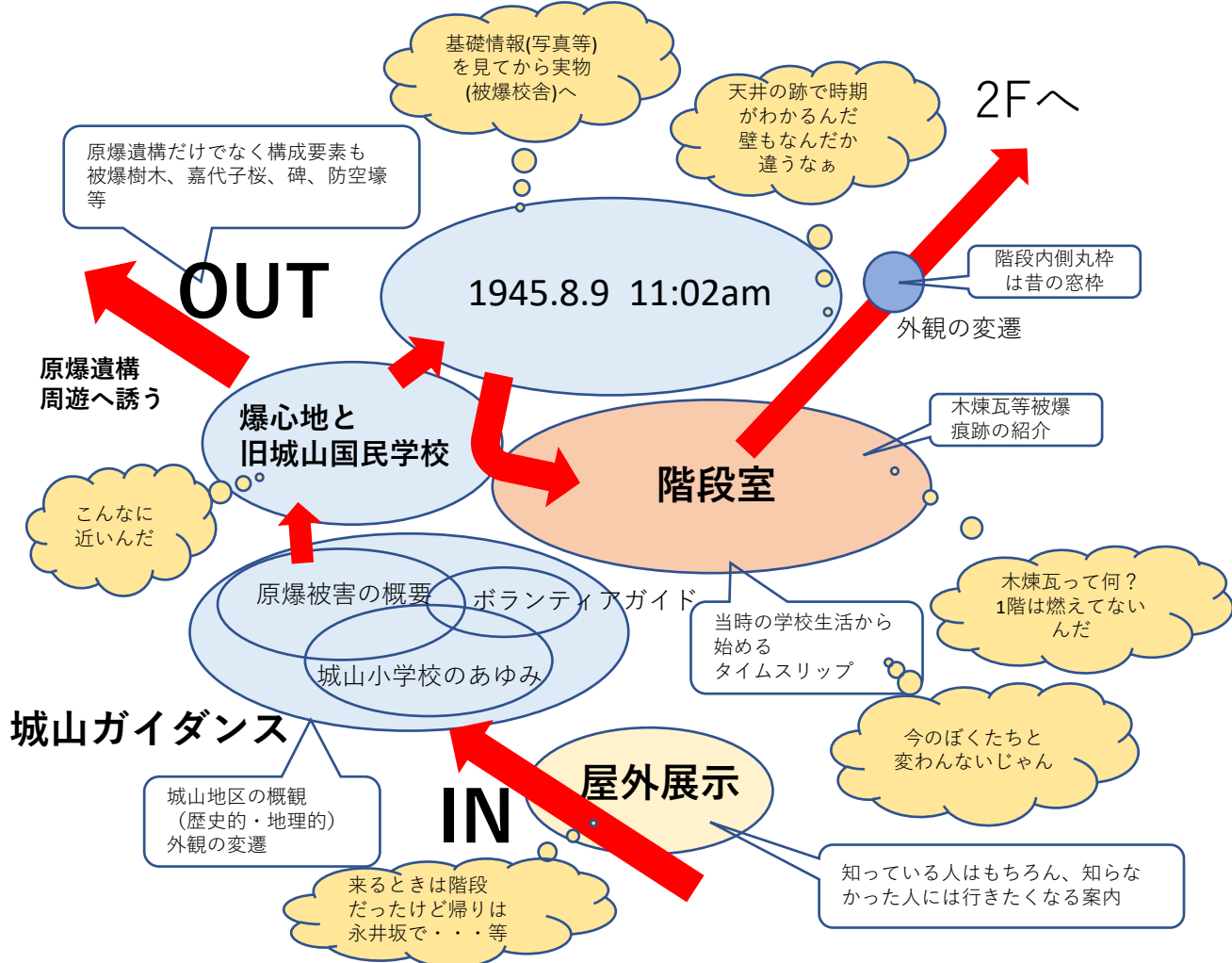
2. 展示改修計画

(3) リニューアル計画

6)ゾーニング計画 ②1F諸室計画（ブロックプラン）

1F 導入 城山ガイダンス / 原子爆弾被爆 原爆の被害01（建物被害的要素中心）

ねらい：城山小学校の設立から現在までのあらましとともに、原爆被爆の被害のすさまじさについて、特に建物被害的要素から理解する。



大項目	大項目のねらい
城山ガイダンス	文化財指定の根拠である被爆校舎（旧城山国民学校）の設立から現在までの歴史及びその背景を知る。
爆心地と城山国民学校	原爆投下地点に近いことに気づき、周辺原爆遺構へ行きたくなる。
1945.8.9 11:02am	貴重な写真資料、実物資料等により被爆した旧城山国民学校とその周辺の様子、原爆被爆による被害のすさまじさを知る。
階段室	被爆前の展示で当時の子供たちの学校生活を考える。燃えていない木煉瓦と炭化した木煉瓦の比較で、当時の状況を想像する。木煉瓦の特徴や役割を知る。階段室外観の変遷に気づく。

※新規補強部の面積で組み換えの可能性あり。

凡例

← 主動線

← 外部view

期待する印象等

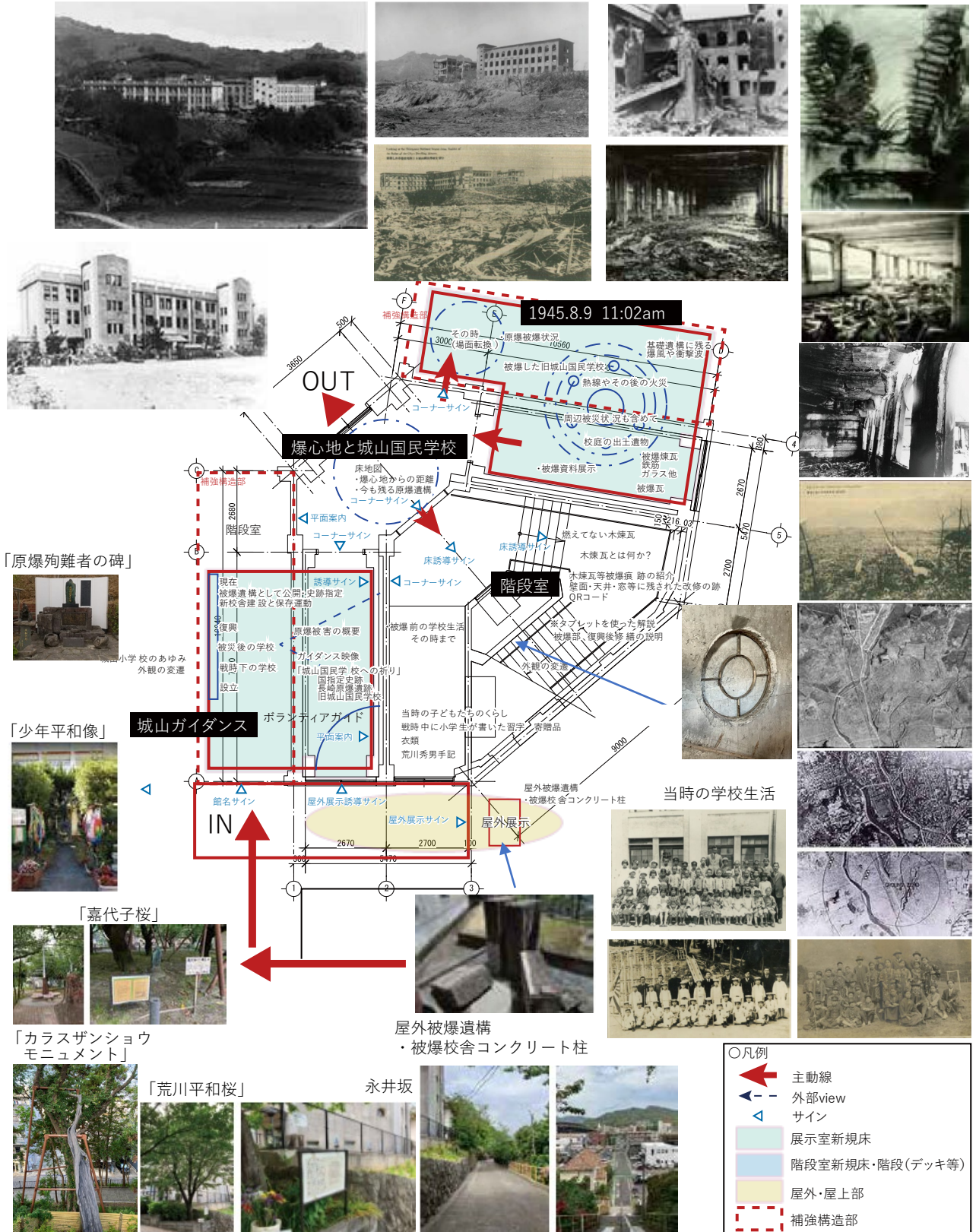
主たる被爆遺構

※本展示改修計画は保存整備基本設計に基づいて作成したものであり、保存整備実施設計の進捗状況に合わせて見直しを行うものとする。

2. 展示改修計画

(3) リニューアル計画

6) ゾーニング計画 ②1Fゾーニング・配置プラン (サイン配置含む)



※本展示改修計画は保存整備基本設計に基づいて作成したものであり、保存整備実施設計の進捗状況に合わせて見直しを行うものとする。

※本資料に使用されている写真は、検討の過程における利用等として、著作権者等の許諾を得ていない著作物等が含まれている可能性があります。このため、検討資料としての使用以外に使用された場合には責任を負いかねますのでご了承ください。

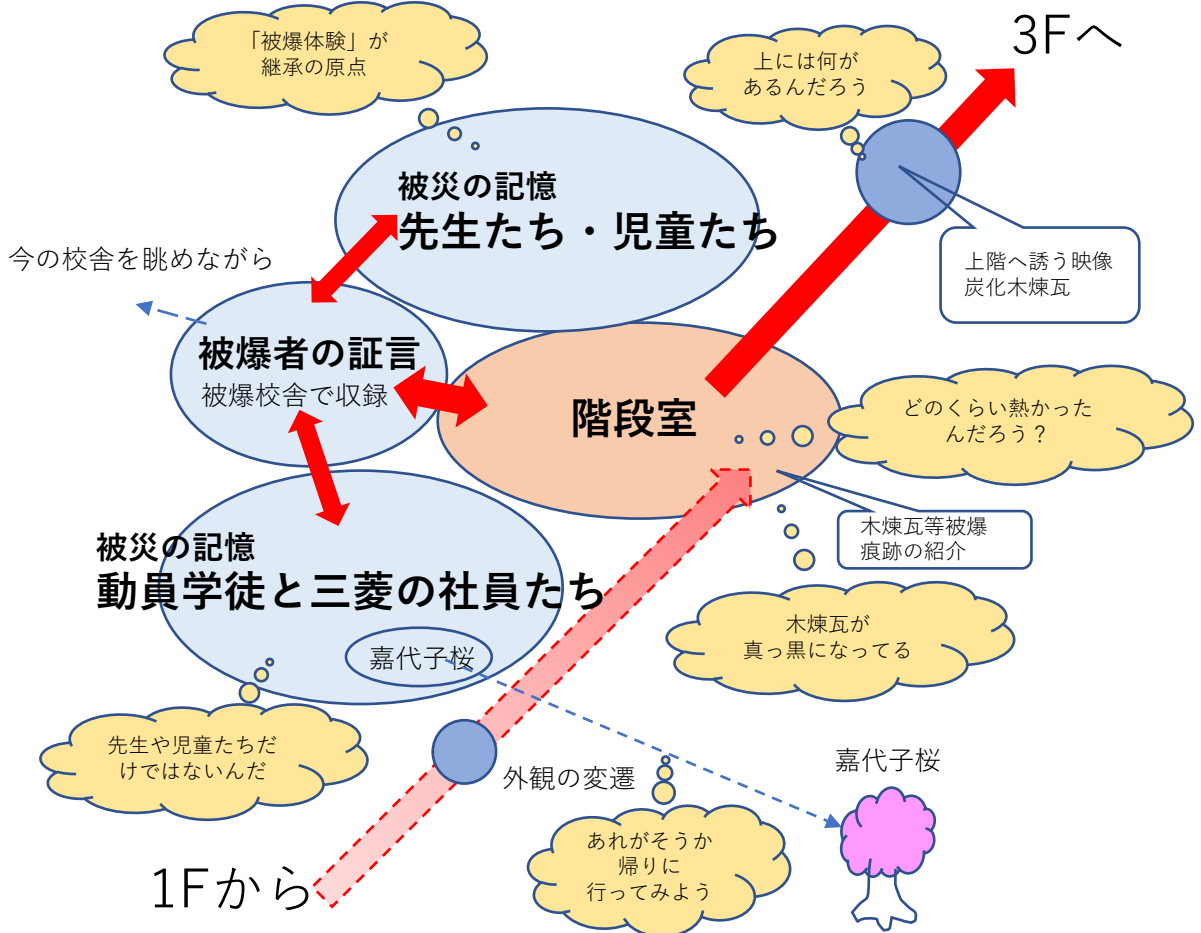
2. 展示改修計画

(3) リニューアル計画

6)ゾーニング計画 ③2F諸室計画（ブロックプラン）

2F 原子爆弾被爆 原爆の被害02、継承の原点

ねらい：原爆被爆の被害のすさまじさを人的被害要素を中心に知る。
旧城山小学校の先生たち、児童たち、動員学徒たちの写真や証言等により
自分事のように実感する。



大項目	大項目のねらい
被爆者の証言	被爆校舎で収録した証言映像で、被害を実感する。
被災の記憶 先生たち ・児童たち	原爆によって旧城山国民学校の先生たち、児童たちの多くが亡くなった。肖像写真や証言等の記録、語り映像などで親近感を高め、被爆による悲劇を実感を持って身近に感じる。
被災の記憶 動員学徒と三菱の 社員たち	原爆投下の瞬間、学校内での被災者は三菱兵器給与課の関係者が多数を占めていた。そのうち特に動員学徒の被災情報をリアルに伝えることで、修学旅行で来館する同年代の子どもたちの共感を呼び起こす。
階段室	炭化した木煉瓦への注目を促し、原爆後の高熱火災の惨禍を知る。 昔と今の窓枠の形状の違いから、階段室外観の変遷に気づく。

※新規補強部の面積で組み換えの可能性あり。

凡例

-  主動線
-  外部view
-  期待する印象等
-  主たる被爆遺構

※本展示改修計画は保存整備基本設計に基づいて作成したものであり、保存整備実施設計の進捗状況に合わせて見直しを行うものとする。

2. 展示改修計画

(3) リニューアル計画

6) ゾーニング計画 ③ 2Fゾーニング・配置プラン（サイン配置含む）

被爆したとき、学校には、本館1階の校長室などに清水佐生校長以下職員29人、その子ども1人、庁務員3人、計33人がいた。このうち助かったのは、荒川秀男教頭ら4人（うち子ども1人）であった。
数字ではなく、ひとり一人の物語を伝える

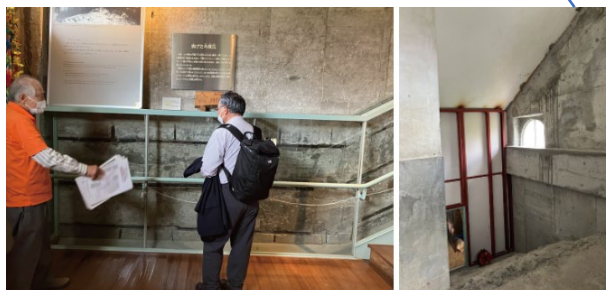


荒川秀男絵画（複製）

- ・ 仮小屋
- ・ 11月15日授業開始へ
- ・ 学習
- ・ 雨の日の登校
- ・ 天突き体操
- ・ 雨の日、雪の日
- ・ 着物をかわかして体を温めた
- ・ 涙の卒業式
- ・ 涙の卒業式2
- ・ 防空頭巾、風呂敷

デジタルフォトフレーム
（静止画+テキスト）

8/9の出勤者は、長崎経済専門学校、県立長崎高等女学校、市立商業学校、女子商業学校、瓊浦高等女学校の動員学徒44人を含む約120人で、一部の者は交替で校庭の端にある防空壕の補強作業をしていた。
被災の状況は、3階（6教室使用）の66人は全滅、2階（5教室使用）の36人は31人が死亡し、5人が助かり、防空壕作業の17人は6人が死亡、11人が助かったがうち2名は放射能障害の症状を示した。
数字ではなく、ひとり一人の物語を伝える



※本展示改修計画は保存整備基本設計に基づいて作成したものであり、保存整備実施設計の進捗状況に合わせて見直しを行うものとする。

※本資料に使用されている写真は、検討の過程における利用等として、著作権者等の許諾を得ていない著作物等が含まれている可能性があります。このため、検討資料としての使用以外に使用された場合には責任を負いかねますのでご了承ください。

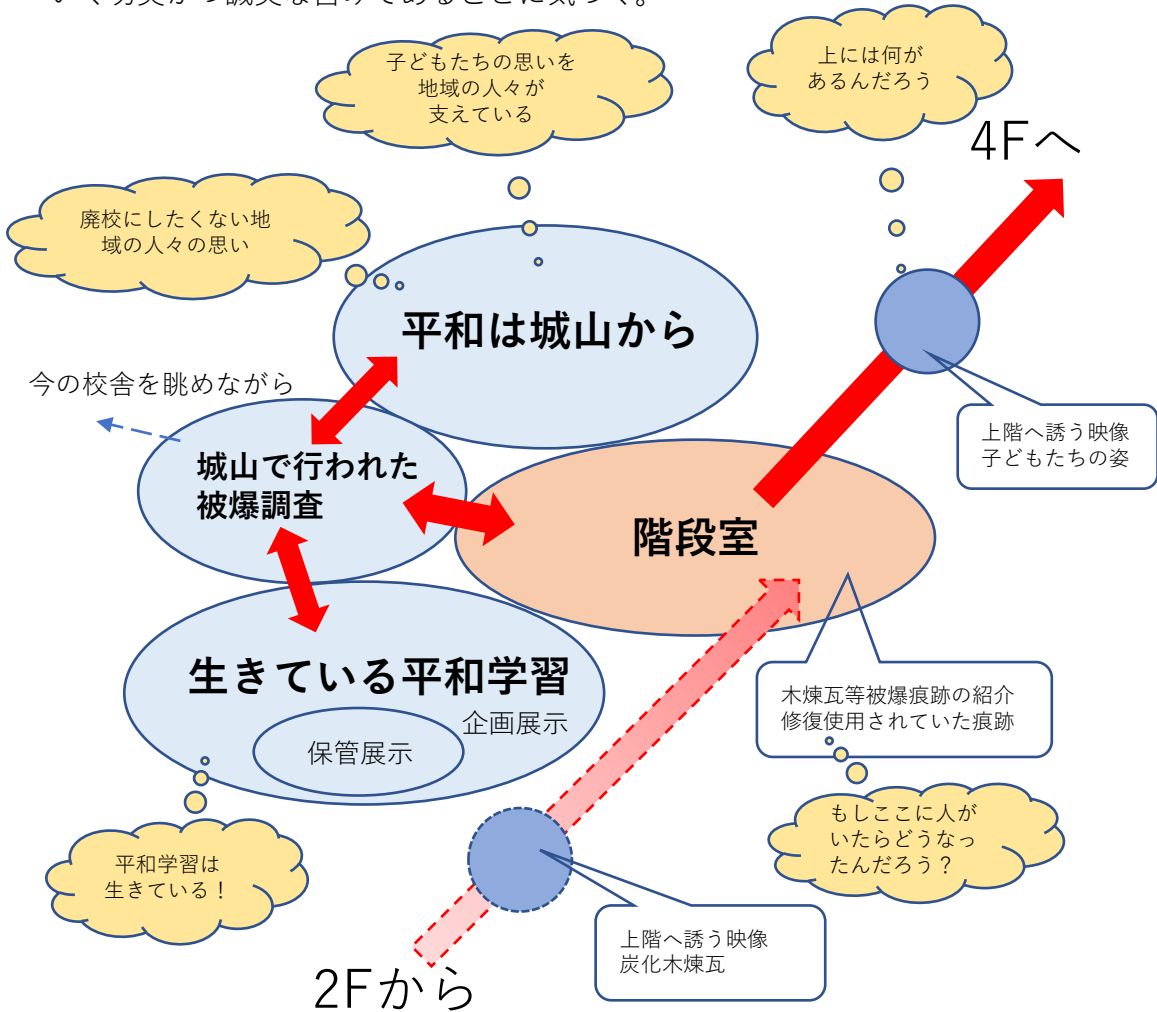
2. 展示改修計画

(3) リニューアル計画

6)ゾーニング計画 ④3F諸室計画（ブロックプラン）

3F 平和は城山から 継承の道のり

ねらい：平和学習は、被爆校舎をかけがえのない教材として、次代の子どもたちに継承していく切実かつ誠実な営みであることに気づく。



大項目	大項目のねらい
城山で行われた被爆調査	ホールを活用し、城山で行われた被爆調査とその成果を知る。
平和は城山から	被爆校舎の取り壊しを寸前に止めたのは児童の声。さらに被爆校舎をかけがえのない教材として守り続けてきた地域の方々の努力、生きざま。戦後の復興から現在までの城山小学校の平和学習の歩みをたどる。
生きている平和学習	平和学習には終わりが無い。現在もこれからも重ねられていく子どもたちの学習の成果等を企画更新しながら発信していく。最新情報発信に併せて活動の記録のアーカイブ化を図る。
階段室	木煉瓦等の被爆痕、補修利用時、保存措置の各段階の痕跡から、人々の思いに気づく。

※新規補強部の面積で組み換えの可能性あり。

凡例

← 主動線

← 外部view

☁ 期待する印象等

○ 主たる被爆遺構

※本展示改修計画は保存整備基本設計に基づいて作成したものであり、保存整備実施設計の進捗状況に合わせて見直しを行うものとする。

2. 展示改修計画

(3) リニューアル計画

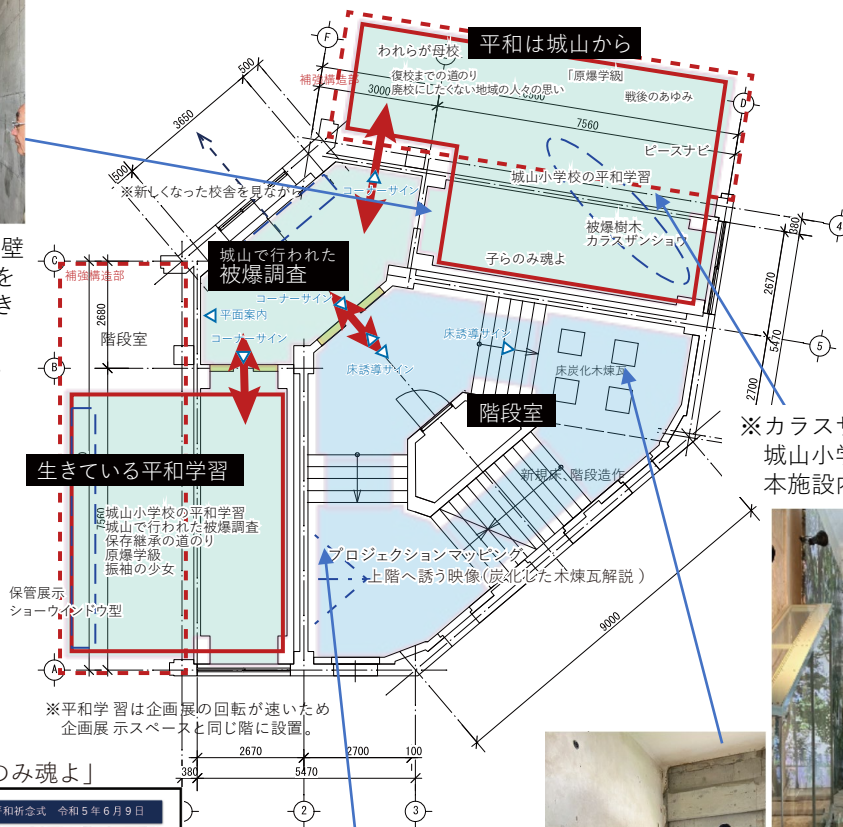
6)ゾーニング計画 ④ 3Fゾーニング・配置プラン (サイン配置含む)



われらが母校
～廃校の危機から復興へ～
戦後、校舎は引き揚げ者のアパートとして使用。
1948年に城山小学校として復興した。
城山小学校の設立
(長崎市への編入、最初の都市計画となった城山地区)



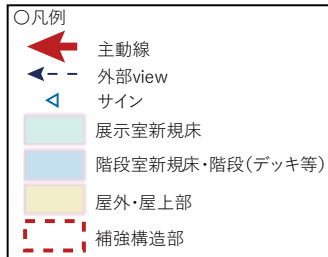
※補強されたRC壁は、補修・補強を重ねて保存してきた証跡。一部残して活用。



※カラスザンショウは、城山小学校の平和学習のシンボル。本施設内に設置するか要検討。



「子らのみ魂よ」



※本展示改修計画は保存整備基本設計に基づいて作成したものであり、保存整備実施設計の進捗状況に合わせて見直しを行うものとする。
※本資料に使用されている写真は、検討の過程における利用等として、著作権者等の許諾を得ない著作物等が含まれている可能性があります。
このため、検討資料としての使用以外に使用された場合には責任を負いかねますのでご了承ください。

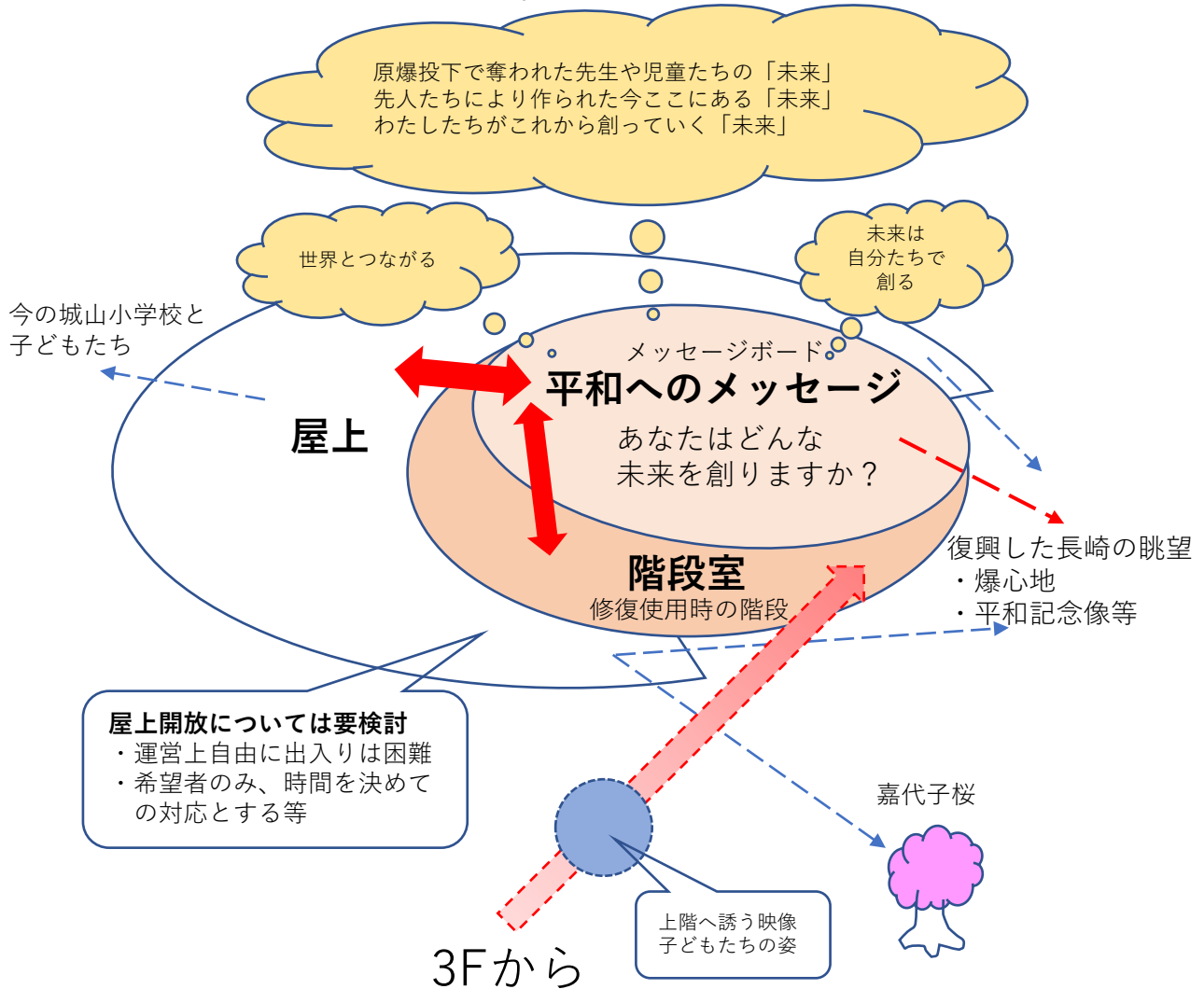
2. 展示改修計画

(3) リニューアル計画

6) ゾーニング計画 ⑤ 4F諸室計画（ブロックプラン）

4F 平和は城山から 継承の道のり

ねらい：未来は自分たちが創っていく。核兵器のない平和な世界に向けて考え行動していく。
そのためのメッセージを交換する。



大項目	大項目のねらい	※新規補強部の面積で組み換えの可能性あり。
階段室	戦後の補修の痕跡から、修復しながら使用してきたことに気づく。	
平和へのメッセージ あなたはどんな未来を創りますか？	核兵器のない平和な世界とは？ 現状を憂う人びとが世界中にいるのに、なぜ核兵器がなくなるのか？ 来訪者に自分事として考えるきっかけ、行動する動機を得る。 ここから見える景観（未来＝現在）を、自らの目で実感する。	凡例 <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="width: 20px; height: 20px; background-color: red; margin-right: 5px;"></div> 主動線 </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="width: 20px; height: 20px; border-bottom: 2px dashed blue; margin-right: 5px;"></div> 外部view </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="width: 20px; height: 20px; background-color: yellow; border: 1px solid blue; margin-right: 5px;"></div> 期待する印象等 </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="width: 20px; height: 20px; background-color: orange; border: 1px solid blue; margin-right: 5px;"></div> 主たる被爆遺構 </div>
屋上	被爆校舎屋上からの景観だけが伝え得る未来、被爆者の無念を受けて先人たちが創りだしてきた未来＝現在を、自らの目で実感する。	

※本展示改修計画は保存整備基本設計に基づいて作成したものであり、保存整備実施設計の進捗状況に合わせて見直しを行うものとする。

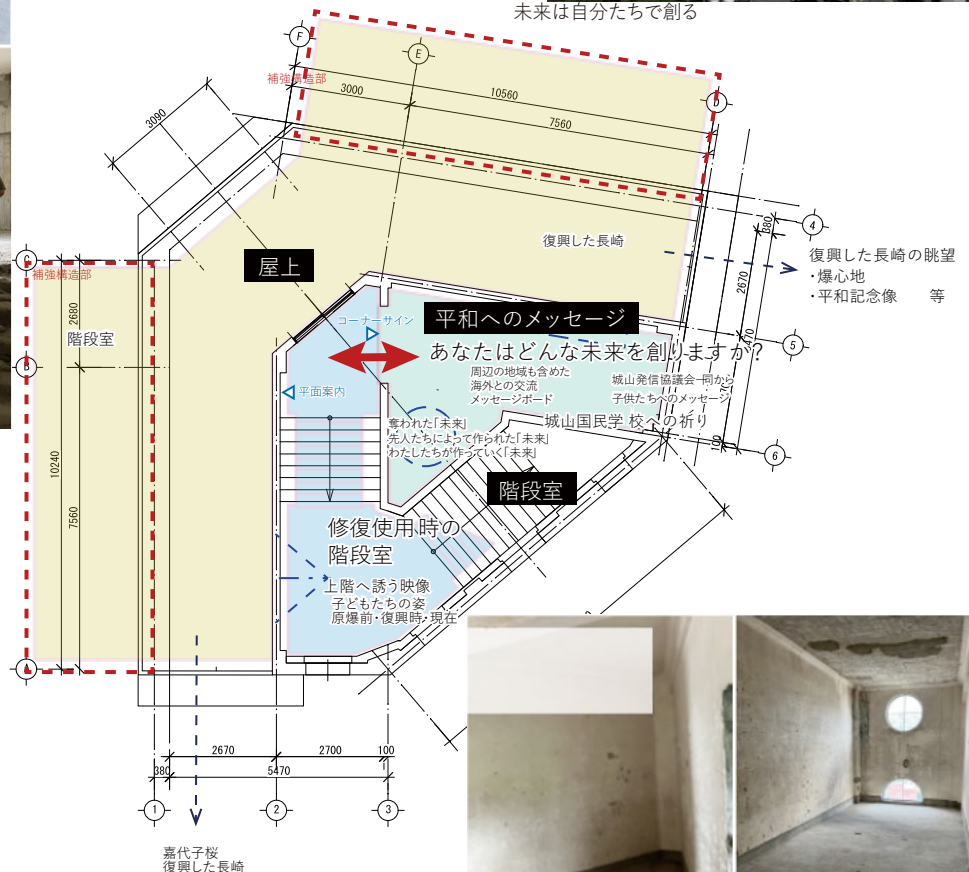
2. 展示改修計画

(3) リニューアル計画

6) ゾーニング計画 ⑤ 4Fゾーニング・配置プラン（サイン配置含む）



未来は自分たちで創る



4Fは修復して使用されていた当時の痕跡が顕著。
漆喰更新とするか、掻き落してコンクリート仕上げとするか、
不適切な落書きも平和の象徴として展示するか要検討。

屋上については、建築工事による新規手すり設置が必要。
無人对応は危険なため、時間を決めてのガイド同行対応を検討する。

※本展示改修計画は保存整備基本設計に基づいて作成したものであり、保存整備実施設計の進捗状況に合わせて見直しを行うものとする。

※本資料に使用されている写真は、検討の過程における利用等として、著作権者等の許諾を得ていない著作物等が含まれている可能性があります。
このため、検討資料としての使用以外に使用された場合には責任を負いかねますのでご了承ください。

2. 展示改修計画

（４）設備にかかる概略計画

本施設は「国指定史跡長崎原爆遺跡を構成する遺構」であることを十分念頭に入れ、各種設備の計画を行うものとする。また、初期展示後の運営を見据えて可変性も検討するものとする。※内装仕上げは費用面での優位性があることから建築工事にて対応するべきと考える。

■文化財をき損しない設備計画

・電気・照明設備

補強構造部をはじめ、階段室以外の展示室に相当すると考えられる部分においては、文化財部分を避け、新規建築部及び補修部を活用し、配線（配管）及び機器を設置することが望まれる。

特に階段室部分は、既存部分を十分調査の上、配線及び機器ベースを再利用することを第一とするが、調査の結果再利用が困難な場合（配線及び機器ベースの劣化、容量不足等）を想定し、新規作成の階段及び踊り場の床構造内を活用し、配線（配管）、機器の設置、取付方法等を検討する必要がある。

基本電気設備は本体建築設備であるが、電源送り位置については、展示設計者は本体建築設計者と調整を行うこと。

・空調設備

空調設備については本体建築設備であるが、補強構造部をはじめ階段室以外の展示室に相当すると考えられる部分においては、既存部分を十分調査の上、市担当部局、本体建築設計者と調整して空調機器位置や設置方法等を設定すること。（空調容量は階段室も含めた容量とすること）

階段室においては、新規空調機器設置が文化財をき損する可能性があるため、補強構造部からの露出ダクトによる配管や取付方法等を検討する必要がある。

室外機の設置については、文化財・史跡をき損しないよう配慮すること。

・防災設備

防災設備については本体建築設備とするが、補強構造部をはじめ、階段室以外の展示室に相当すると考えられる部分においては、市担当部局、本体建築設計者と調整して設置位置を設定すること。

防火区画・防煙区画等については市建築指導課及び本体建築設計者と調整を行うこと。

階段室においては、階段通路誘導灯及び煙感知器設置等が義務付けられると思われるが、文化財をき損しないよう、補修部及び新規床部を活用して配線、機器設置取付を行うこと。

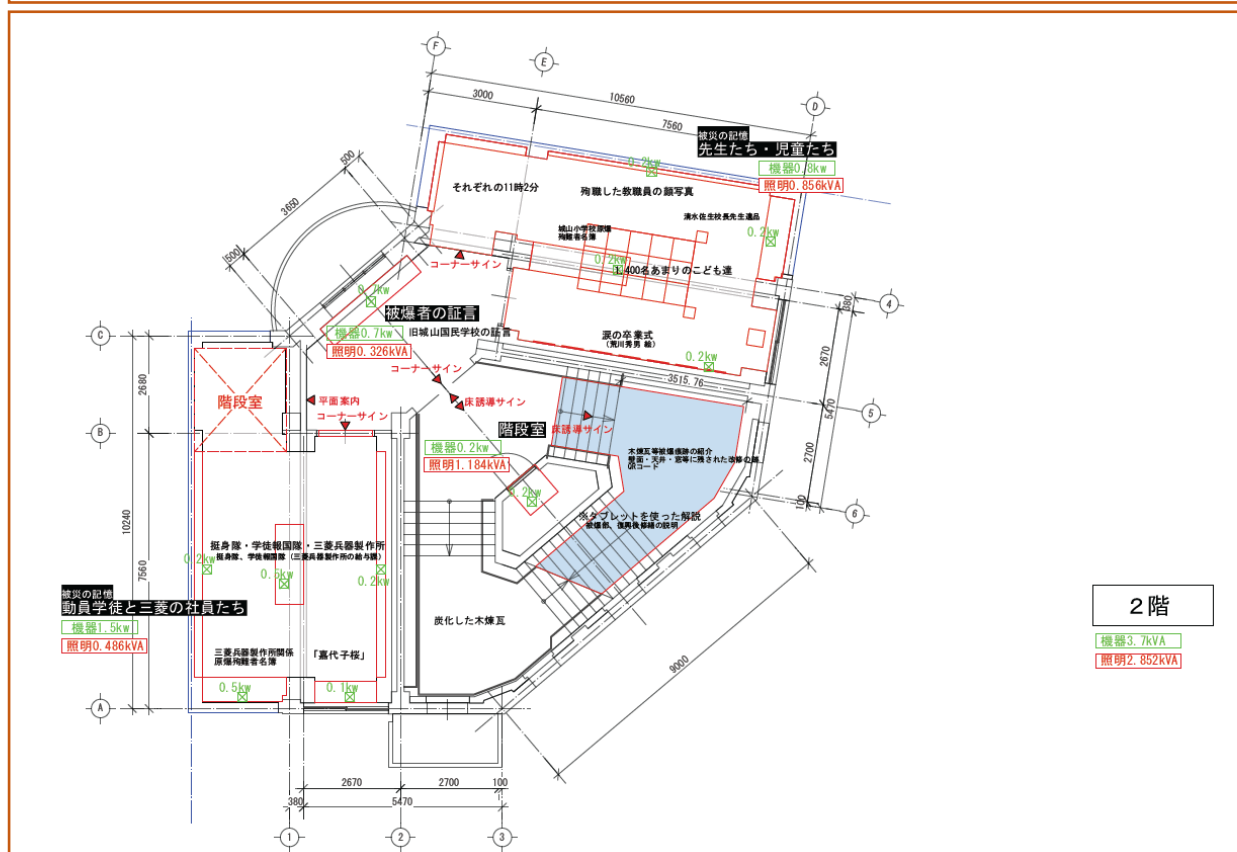
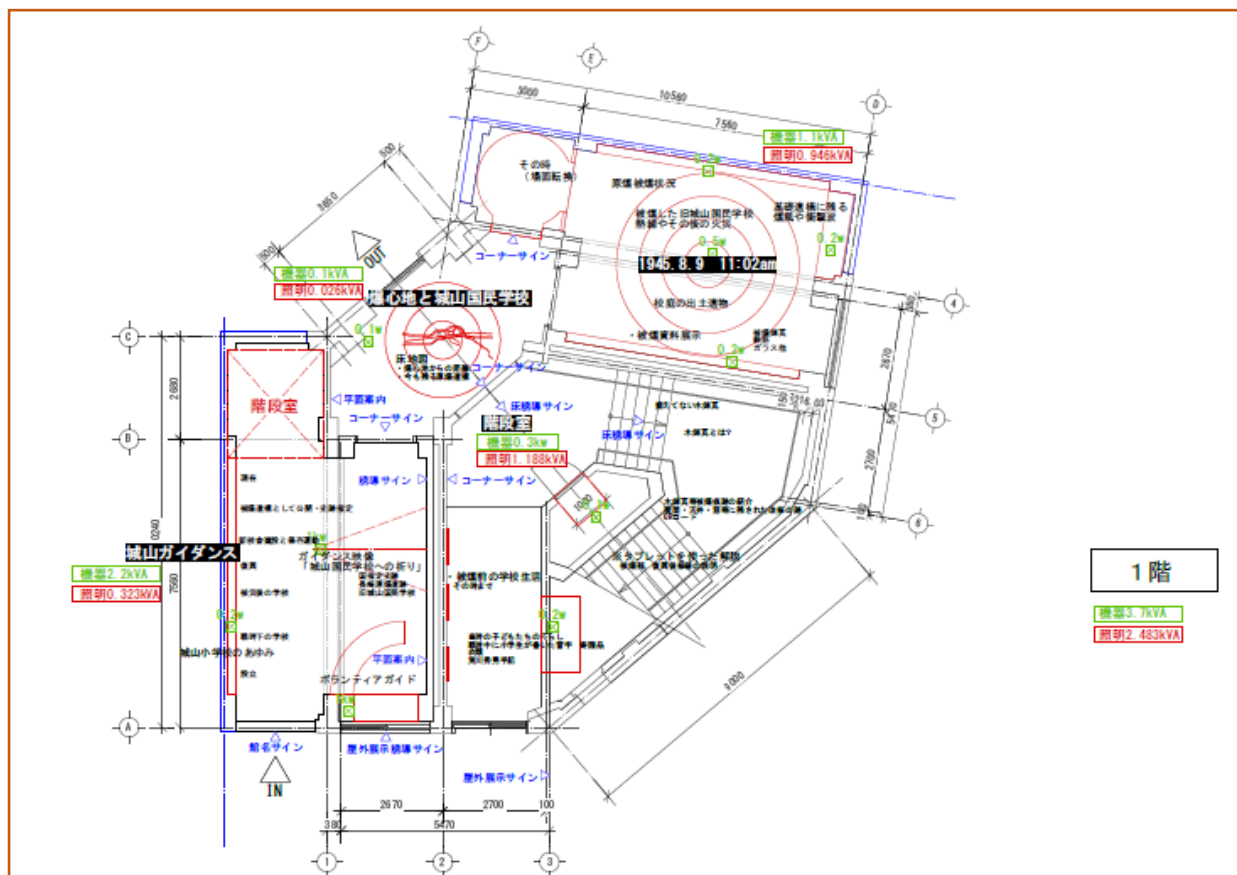
また、設計においては所轄の建築指導課、消防及び、市担当部局、本体建築設計者等と十分協議を行う必要がある。

・通信設備

直近2023年において総世帯における世帯ベースでの普及率は、スマートフォンでは89.9%であり、学校教育においても「GIGAスクール構想」によりタブレット等を活用した学習が一般化し、今後ますますデジタルデータの活用が予想されている。これらの社会情勢を背景に、展示においてもより深い学習のため、スマートフォンやPCを活用した情報提供が一般化している。また、海外からの来館者に向けての翻訳についても活用できるため、本施設においても、デジタルデータの活用をベースとして、館内Free-WiFiを導入することが望ましい。

2. 展示改修計画

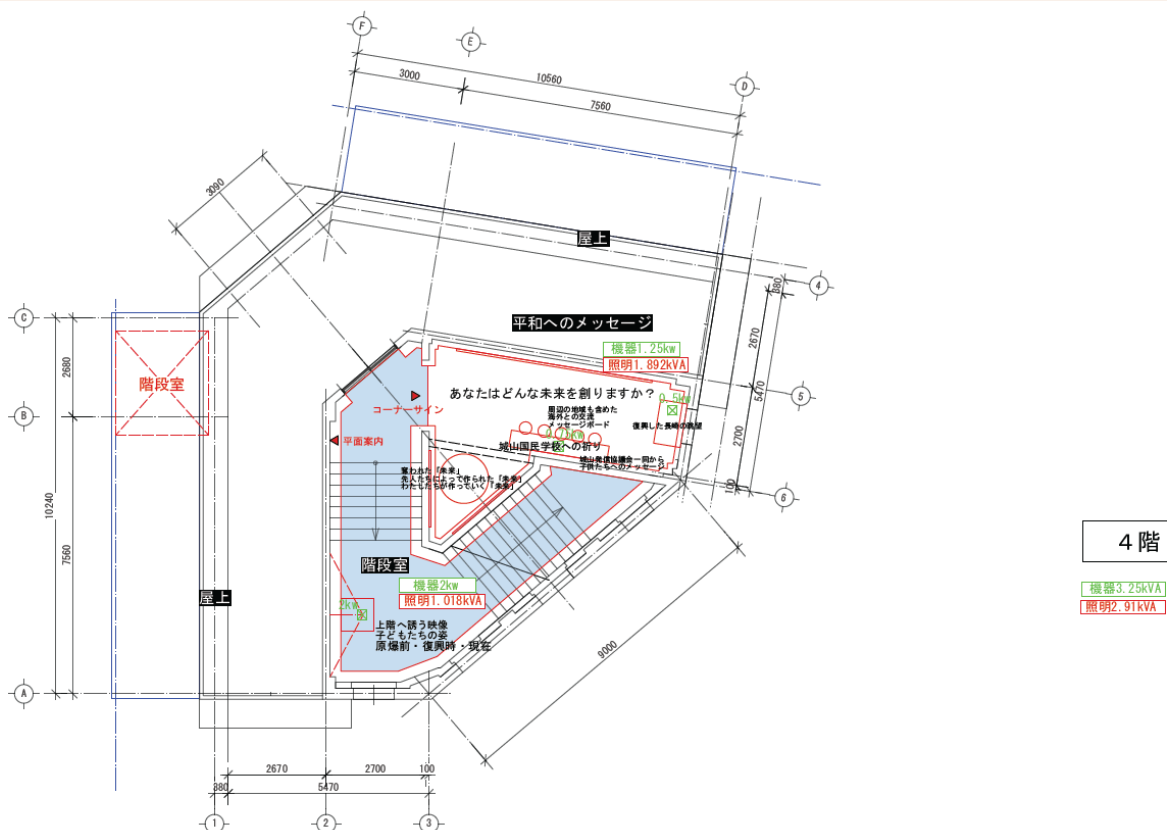
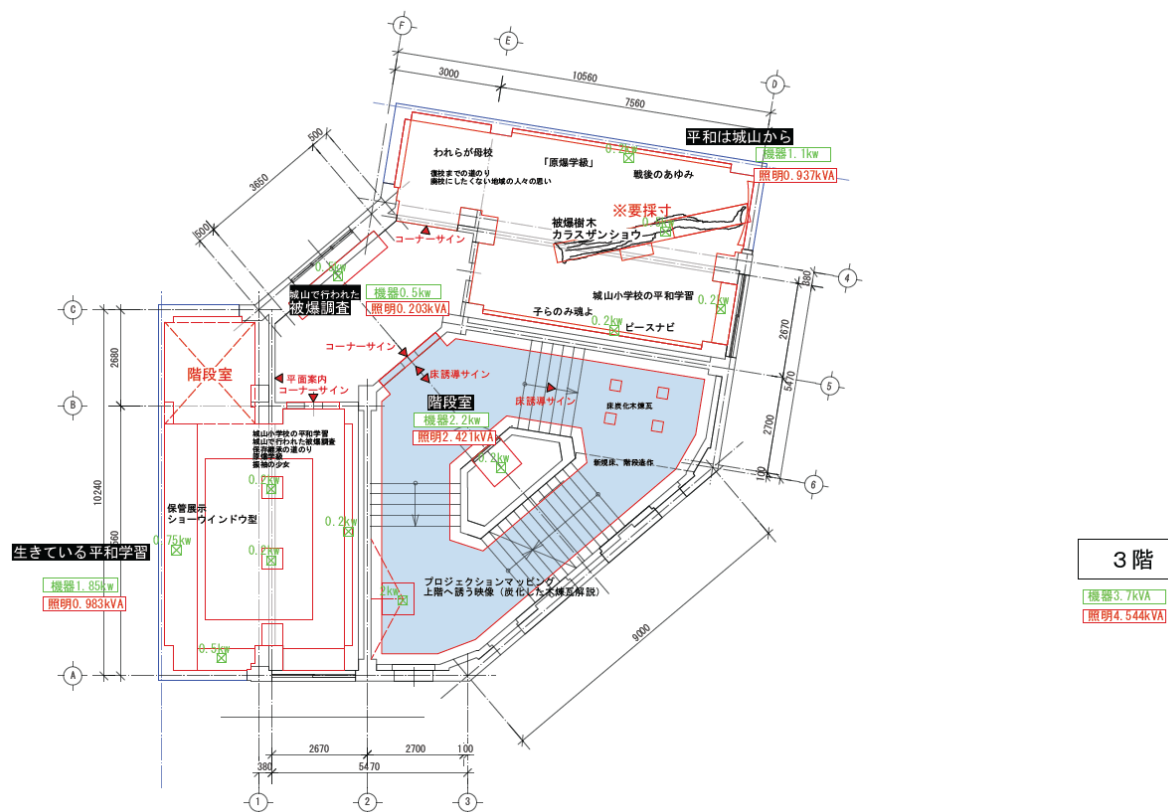
(4) 設備にかかる概略計画 ●概算電気容量 01



2. 展示改修計画

(4) 設備にかかる概略計画

●概算電気容量 02



2. 展示改修計画

(5) 展示活用のための運営計画

本施設では「城山小学校被爆校舎平和発信協議会」が令和9年3月末まで指定管理者として施設管理ならびに展示解説等の運営業務を行っている。また、本施設が位置する長崎市立城山小学校は、平和学習の一環として本施設を活用し、6年生が担当する「ピース・ナビ」で、平和の尊さを語り継いでいる。これらの状況を踏まえ、展示のより効果的な活用を促進するための運営について検討する。

現状を生かした現実的かつ訴求力のある運営計画

■「継承」の視点を常に意識した運営計画とする

・指定管理者の案内業務は、人から人への「継承」として重要である

○本校OBを中心とする指定管理者は、展示解説を通して被爆を伝える「語り部」として本施設を守り、平和の希求を訴え続けている。本施設における人的な対応の重要性を鑑み、発信力を高めつつ負担の少ない運営を目指す。

・城山小学校の平和学習がにつづける「継承」の成果発信の場としての活用

○「平和学習」の成果等、城山小学校の子どもたちが継続的に発信できる場を設定。
 ・子どもたちのプライバシー確保の観点是不可欠。
 ・子どもの能動的な学びを引き出すことで生きた平和学習、やりがいの場となる運営を目指す。

▶副次的産物としてのリピートの仕掛け

平和学習の成果等を更新しながら発信する展示機能により、現場の負担の軽減を図りつつ、城山小学校の平和学習の特徴を来館者に感じてもらう。

■本施設の来館者特性をよく踏まえた運営計画とする

〈来館者特性〉

○現在、来館者は年間約2万人。団体は主に修学旅行生で10人程度のグループ見学が中心。(学校毎の見学プログラムによる学習)滞在時間は1時間前後。
 ○訪問者は被爆建物であることは知っている。しかし、ここで何が起こったのか詳細まで理解している方はほとんどいない。

▶国指定史跡長崎原爆遺跡旧城山国民学校校舎にこだわった展示運営

○第2の原爆資料館ではなく、「旧城山国民学校校舎」を強調する。
 ※証言も本施設で撮影する等のこだわりを持つ。

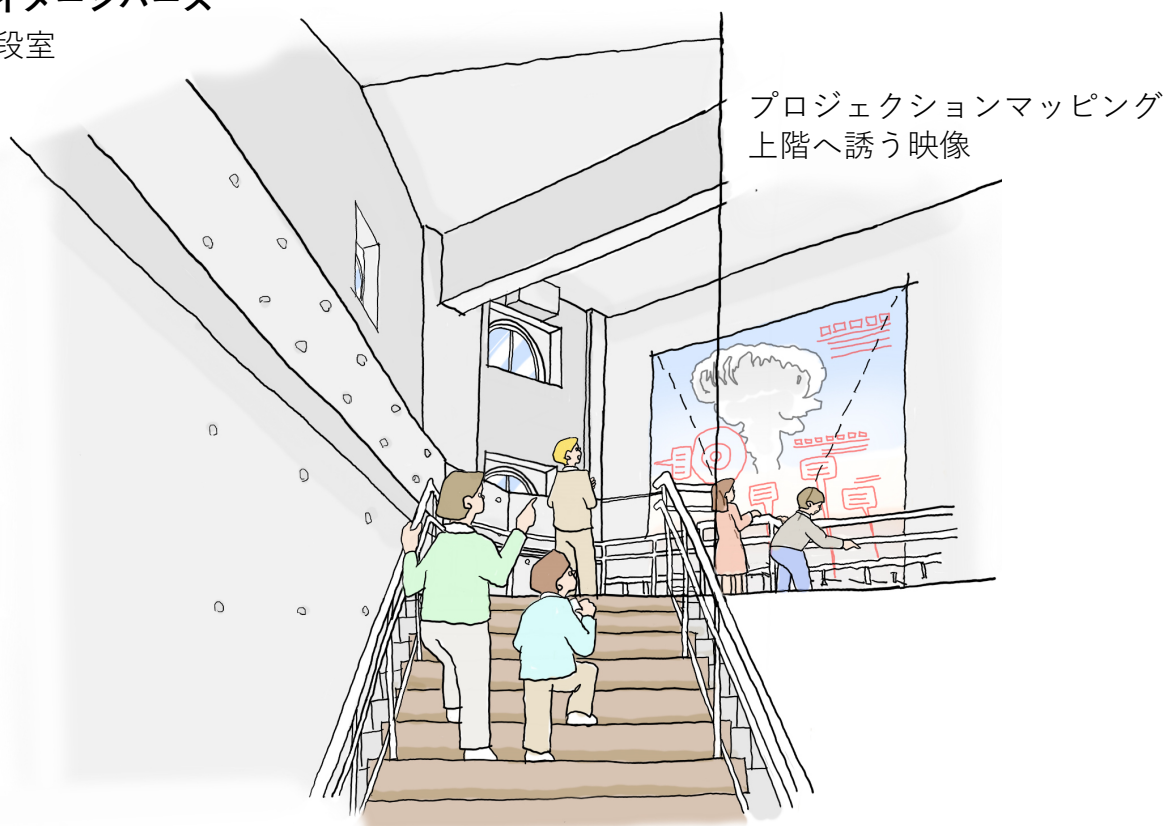
■ICT技術の活用による多様な伝え方への対応をはかる

○被爆の実相を伝える校舎実物のリアリティを最大限に活かしつつ、短時間で多数の来館者がある場合への対応や外国人への対応等も見据え、ICTを中心とした展示解説ツールを開発し、実物を題材に能動的な学習の助けとする。
 探究心を持って現地を訪れる人、現地の雰囲気を感じたい人、さまざまな来館者に対応するため、所蔵する資料や平和学習の成果、証言、ガイドのデータ化、海外からの来館者に対応する、多言語ツールの採用で、多様な伝え方を目指す。
 ○校内の碑や植樹、防空壕等、城山小学校全体が持つメッセージを来館者に伝える。

2. 展示改修計画

(6) イメージパース

■階段室



木煉瓦等被爆痕跡の紹介
壁面・天井・窓等に残された
改修の跡
QRコード



2. 展示改修計画

(6) イメージパース

■ 1F 城山ガイダンス



■ 3F 平和は城山から



2. 展示改修計画

(7) 概算事業費

本項目における概算事業費は、展示制作施工費（複数の類似博物館等における展示更新を参考とした施工単価に、主要な展示物である階段室の面積を乗じた金額）、展示に使用する証言映像制作、ICTを使用した展示解説支援ツールの導入にかかる費用を積算し、年次計画に基づき、各年度の事業費を算出した。

令和5年度	計画策定支援業務委託		4,290千円 ※契約額
令和7年度	証言映像収集	4,026千円	
	基本設計業務委託	4,785千円	合計 8,811千円
令和8年度	実施設計業務委託	4,785千円	
	制作・施工	30,877千円	合計35,662千円
令和9年度	制作・施工	30,877千円	
	ICT整備	4,400千円	合計35,277千円
令和10年度	制作・施工	14,255千円	
	ICT整備	17,600千円	合計31,845千円

(8) 概略工程表

		令和5年度 (2023年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	
史跡整備事業	保存修理に伴う 実施設計	→				O P E N	
	耐震対策及び 保存修理工事	仮設工事 →	保存整備工事 →				
長崎市	展示資料調査 解説原稿作成 文化庁協議	展示資料調査 →					解説原稿調整 →
		文化庁協議	解説原稿作成 →		調整		
展示改修事業	展示基本設計		→				
	展示実施設計 ・制作業務			→		→	
補助対象事業費 (最大)			●展示基本設計 ・展示構成リスト ・展示平面・展開図 ・解説計画図 ・映像シノブシ ・機器システム概要 ・イメージ図 ●文化庁協議補助 ●証言映像撮影 ●有識者委員会等対応	●展示実施設計 ・展示構成リスト ・展示平面・展開図 ・詳細図 ・解説計画 ・グラフィック構成図 ・映像シノブシ ・機器システム図 ・展示平面・展開図 ・イメージ図 ●文化庁協議補助 ●有識者委員会等対応	●展示制作 ・施工図 ・グラフィック版下 ・映像シナリオ・撮影 編集業務 ・解説翻訳業務 ・展示工事 ・完成図書 ・竣工写真 ・取扱説明書	●展示コンテンツ制作 ・ICT制作業務 プログラム作成 等 ●有識者委員会等対応	
			36,000,000	36,000,000	36,000,000	36,000,000	

※展示実施設計以降のスケジュールについては、展示基本設計の検討状況に応じ、随時必要な見直しを行う。

なお、本施設は国指定史跡長崎原爆遺跡を構成する遺構であり、現状変更の許可などの文化庁協議を遅滞なく進めることが、本工程を着実に進める上で不可欠である。

※展示基本設計は、基本計画と展示資料のあらましに基づき、展示のねらいを展示構成に反映、解説計画を策定する。併せてそれらを空間イメージに表すと共に、概算予算の拾い出しを行う。

また展示に必要な設備（電気容量等）の与件を策定。市、建築本体と調整し、設計・施工区分を決定する。

※展示実施設計は、展示基本設計に基づいて採用する展示資料の決定を行い、展示のねらいを充足させる手法と解説の法量を決定する。

空間イメージを決定すると共に図面化を行い、妥当性のある積算を行う。

また展示に必要な設備の状況を再確認し、市、建築本体と調整するとともに展示実施設計に反映させる。

※各種解説については、施工段階において、解説テキスト・資料写真等を受領しグラフィック、映像解説等に反映させるとともに、現地詳細寸法を採寸し施工図を作成。施工承認を受けたうえで施工を行う。

2. 展示改修計画

(9) 展示設計に向けて

■本業務の状況

「国指定史跡長崎原爆遺跡旧城山国民学校校舎」は令和5年3月24日まで、保存に伴う耐震補強を中心とした「国指定史跡長崎原爆遺跡旧城山国民学校校舎整備基本設計業務委託」が行われ、令和5年度には実施設計業務を経て、施工に向けて順行する予定である。

本業務（国指定史跡長崎原爆遺跡旧城山国民学校校舎展示改修計画策定支援業務委託【以下、展示改修計画】）は、続く展示改修基本設計のための設計条件の集成を目的とする業務であり、「**被爆校舎に刻まれた原爆の惨禍を知り、核兵器廃絶に向け考動する動機付けを与える**」施設として、被爆の実相を伝える実物のリアリティを最大限に活かすべく、細部にわたる設計方針を整理している。

上記を受けて、続く展示改修基本設計においては、以下の条件が求められる。

■設計に対応できる技術力保有の必要性

本施設は、国指定史跡長崎原爆遺跡を構成する遺構であり、長崎市に残存する数少ない被爆建物でもあるため、文化財の保存と活用の実現を優れた技術力により果たすことが求められる。そのなかで、現状変更の許可などの文化庁協議を遅滞なく進める必要がある。長崎市が文化庁に対し実施する説明に資する内容の資料を迅速に提供可能な技術力・経験を保有する者でなければ、業務を工程通りに進めていくことは非常に難しい。

さらに、先行する保存整備実施設計の進捗に対しても、臨機応変かつ確実な対応が求められる。展示室の形状・面積、壁面の有無、電気容量、設備の制約などに対し、設計者がこれを着実に実現できるように学芸員を中心に、一級建築士、一級電気施工管理技師等の多様な技術力を結集しなければ、本施設に見合う設計成果をあげることは難しい。

また、展示内容には、被爆死した教職員、児童、動員学徒に関するものを含むことから、センシティブな情報を取り扱うにあたり適切な保護措置を講ずる体制の整備が必要であり、プライバシーマークを取得しているなど第三者的な視点で評価されていることも欠かせない。

展示設計は展示改修計画を十分踏まえて実施すべきものであり、展示改修計画受注者が展示改修基本設計の受注者となる機会を排除しない方向で検討すべきと考える。

■類似施設設計・施工にかかる経験実績と技術実績

展示改修基本設計及び実施設計・施工において、文化財的価値に関する細やかな理解だけでなく、原爆被爆の惨状、地域の方々の遺構に対する思いなど、さまざまな視点からの展示が求められており、発注者が実施する関係各所との協議、調整へのサポートのみならず、手戻りのできない状況においての発注者が適切に判断できる材料の提供が求められる。

国指定史跡の史跡内建造物でありかつ被爆建物での展示であり、他に類例がない中での業務となるため、展示業務の設計・施工においては、文化財施設内もしくは文化財ガイダンス施設の設計・施工について豊富な経験を有することは必須である。その上で、人権・平和・戦争関係をテーマとする展示にも十分に精通し、展示設計・施工を一環で行う能力を有する専門スタッフによる設計が望ましい。

■先行する保存整備実施設計・施工に速やかに対応可能な体制

展示改修設計は保存整備実施設計及び施工と並行して行われるが、先行する保存整備受注者から、市と展示設計者に対して質疑がなされることが予想される。その段階で、展示基本設計業者は、展示改修計画を踏まえた適切な判断と提案を長崎市にするとともに保存整備設計・施工業者との詳細な調整をする必要が生じる。展示設計において予算で計上しにくいこの微修正への対応力が必須となる。

何より重要なことは、展示改修基本設計では資料研究・執筆の期間を十分に取しながら、同時に現場での微修正を含めた建築との詳細調整を、遅滞なく進める総合力と調整能力のある体制づくり。ここを重視することが望ましい。

参考：ヒアリング詳細

1) 指定管理者へのヒアリング(1)

平和発信協議会 山口会長

2023年7月28日 13:00～14:00／城山小学校 集会室

- 被爆後の長崎を撮影した林重男氏の貴重な写真をもっと活用してほしい。
- 荒川秀男先生から預かった貴重な資料を展示できるようにしてほしい。
- 内田伯から預かった「触れる被爆瓦」も展示に活用したい。
- 被爆校舎の変遷がわかる写真構成 にしてほしい。
- 運動場にある防空壕で何があったか、その様子も展示で伝えたい。
- 1階奥の年表は不要な項目を削除、新規事項を追加できるようにしたい。
- 2階学校展示コーナー付近で、三菱の所員や先生方がどこにいたか等の話も入れてほしい。ピース・ナビなど交流に関する展示も入れてほしい。
- 被爆前の城山町には城山小学校に関係のある方が何人も住んでいた。また関係のある施設等も多数ある。そうした場所を確認できる地図がほしい。
- 受付には人が常駐しているため、来館者としては心情的に受付付近の展示が見にくい。何とかしてほしい。

2) 指定管理者へのヒアリング(2)

平和発信協議会 旧城山国民学校校舎 池田施設長

2023年7月28日 15:30～16:30／城山小学校 集会室

(※山口会長と重複するご意見・ご要望は割愛)

- 全体的に展示物についての説明文が不足している。現状では口頭で伝えるようにしているが、できる限り誰にでもわかる文章で説明したほうがいい。
 - ・導入の大型写真パネルの状況や方位
 - ・亡くなった先生方は女性が多いのはなぜか等の背景のストーリー
 - ・被爆校舎模型 もまったく説明がない
 - ・焦げた木煉瓦が伝える火災の様子 等
- 被爆校舎が現在まで遺されている理由や経緯を大事にしたい。特に、「平和は城山から」の三本柱（杉本氏、荒川氏、内田氏）、被爆校舎の解体を止めた少女。この2つはきちんと伝えたい。

3) 長崎市立城山小学校へのヒアリング

長崎市立城山小学校 大津教頭

2023年7月28日 9:30～10:15／城山小学校 校長室

- 城山小学校では学年毎にテーマを決め、平和学習を重ねている。集大成として6年生で校内の被爆関連ポイントを案内するピース・ナビを行っている。毎月9日には「平和祈念式」も行っている。
- ピース・ナビの実施回数は年間で多いときには5～6件になるが、子どもたちの負担が大きいため、3回位に減らすことも検討している。
- 城山小学校の子どもたちが発信していける場がほしい。例えば絵や作文、ポスター、標語等の子どもたちの作品、あるいは平和祈念式での合唱の映像などが考えられる。
- 子どもたちの身の回りにある日用品等の展示品がここにはない。そういうものがあれば実感しやすい。
- 被爆校舎を学習している5年生は、今あるものは残してほしいと言っていた。